

いま看護に問われている 多くの問題がこれで解決!

[評者] 高屋澄子 沖縄県立那覇病院看護部長

固定チームナーシング

責任と継続性のある看護のために 第2版

西元勝子, 杉野元子 著

B5判, 216ページ

定価 2310 円(本体 2200 円+税 5%)

医学書院 TEL. 03-3817-5657



■機能別看護から固定チームナーシングへ

筆者の前任地である沖縄県立中部病院で、初めて固定チームナーシングが導入されたのは、2001(平成13)年10月である。550床で病床利用率98~100%, 在院日数14日, 24時間救命救急をオープンしている多忙な病院で患者に信頼され、喜ばれる看護実践のために40年継続された機能別看護から、固定チームナーシングへ改められた。

しかし、今なぜ、看護方式を変えるのか、従来の看護方式とは何が違うのか、多忙な当院には、適さないなどの意見もあり、混乱していた。

そのような状態にあるとき、『固定チームナーシング』の初版が発行された。この看護方式は、どうすれば、患者に責任をもって、継続した看護が展開できるかという視点から実践された看護を踏まえて開発された看護方式である。導入準備から実践、定着に至るまでどう取り組めばよいか、その状況に応じて参考になるような事例も提示されていた。予測される問題や、解決方法まで示されていた。この本のおかげで理論武装でき、病棟で生じている問題に対応できた。

この実績をもって、現在、7つの県立病院すべてが固定チームナーシングで運営されている。

■なぜ、固定チームナーシングがいいのか

これまで5年間継続して、固定チームナーシ

ング全国大会に参加している。北は北海道から、南は沖縄まで、約2000名が参加し、100題以上の実践報告がなされる。参加施設は導入準備の施設、導入してまだ年数の浅い施設、20年以上のベテラン施設に至るまでさまざまであり、施設が直面している状況を共有したり、問題解決に必要な情報を得るための学習の場になっている。

第2版には、この5年間に報告され、他の施設でも参考になると思われる事例が選ばれ、そこに解説がつけられ掲載されている。特に電子カルテ導入に関すること、応援機能や協働業務の考え方、小集団活動など、事例から学習できることは多い。沖縄県でも、すでに活用していることもある。そのほかに看護チームのデータベースを一般急性期病床と療養型病床に分けて示され、また固定チームナーシングのチェックリストも付録として掲載されている。活用しやすいよう編集されており、この一冊があれば、大変便利である。

この看護方式は、看護職者を取り巻く医療環境に柔軟に対応し、どうすれば看護職者の能力がアップし、主体性のある看護活動が可能になるか、やりがい感のある業務ができるか、そのことを実現するための教本であり、手引書である。固定チームナーシングを導入していない施設の看護管理者も、ぜひ一度手にとってほしい。